



ANNUAL  
REPORT **2011**

[www.cfc.or.jp](http://www.cfc.or.jp)

一般社団法人チャンス・フォー・チルドレン

本部事務局：兵庫県西宮市甲風園1丁目3-12 カミヤビル3階

仙台事務局：宮城県仙台市青葉区本町1丁目13-32 オーロラビル1106

---

TEL : 022(265)3461 FAX : 022(265)3471 E-mail : [info@cfc.or.jp](mailto:info@cfc.or.jp)

# すべての子どもに機会を すべての子どもに夢を

すべての子どもに  
平等な教育の機会が与えられ  
それぞれが自分の夢に向かって  
進んでいける社会を目指しています

子どもたちにとって塾・予備校・習い事などの学校外教育は、多様な人間関係を育み、選択肢の幅を広げ、将来の自立に寄与する、成長に不可欠な機会です。しかし現在の日本では、義務教育により公教育の機会が保障されている一方で、学校外教育の機会は家庭の経済状況に左右されます。つまり、日本には家庭の経済的な理由で学校外の教育を十分に受けることができない子どもたちがいるのです。自分の生まれた環境によって教育の機会が失われ、将来をあきらめなければならない……そのような状態はあってはなりません。私たち「チャンス・フォー・チルドレン(CFC)」は、子どもたちの学校外教育の機会を保障することで、すべての子どもたちが自分の夢や目標に向かって進むことができる社会を実現したいと考えています。



Photo by Natsuki Yasuda / studio AFTERMODE

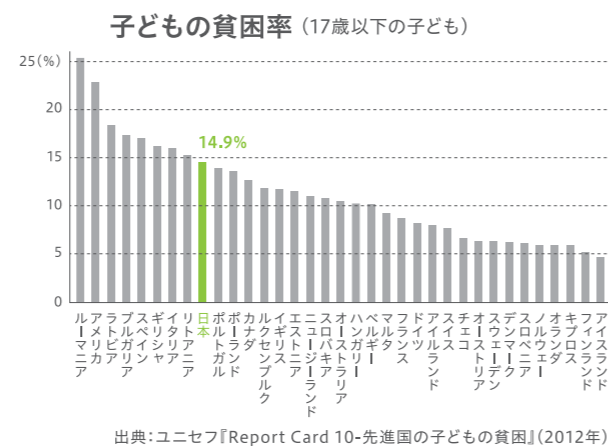
# 「子どもの貧困」は海外だけの問題ではありません

日本国内には、経済的な理由で学校外教育を十分に受けることができない子どもたちがいます。生まれた環境によって、子どもたちの将来が左右されることがあってはなりません。そのために私たちCFCは、経済的に苦しい状況にある子どもたちの学校外教育の機会を保障し、将来の自立を支えていきたいと考えています。

## 日本では、約7人に1人の子どもが貧困状態にあります

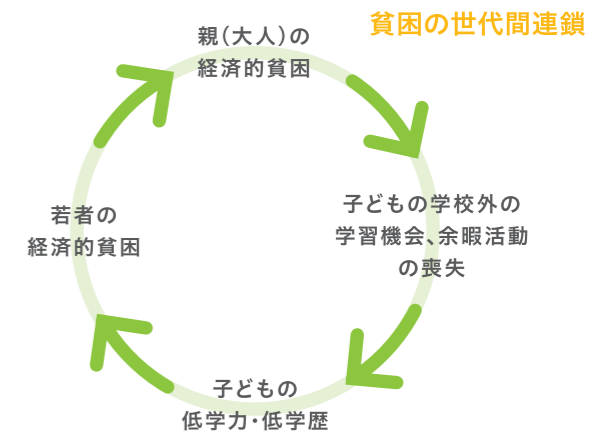
ユニセフ(国際連合児童基金)が2012年にまとめた報告書によると、日本の子ども(17歳以下)の相対的貧困率は14.9%でした。これは、先進国35ヶ国中9番目に高い数字であり、日本の子どもの約7人に1人が貧困状態にあることを示しています。

※子どもの貧困とは等価可処分所得(世帯の可処分所得を世帯人員の平方根で割って調節した所得)の中央値の半分に満たない17歳以下の子どものことをいう。



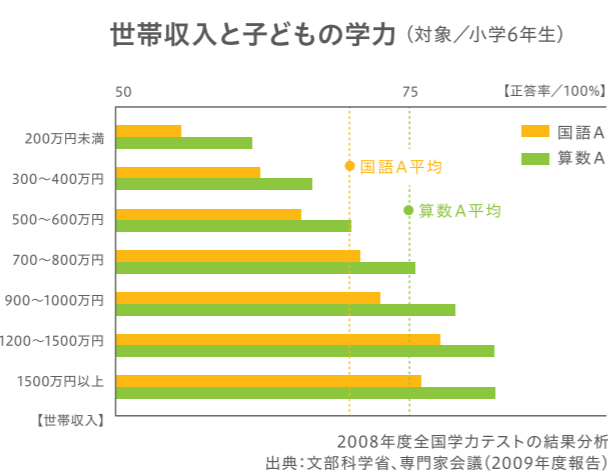
## 貧困の世代間連鎖が生まれています

親の経済的貧困は、子どもから学習の機会やさまざまな体験活動の機会を奪うことにつながります。教育機会に恵まれなかったことで低学力・低学歴になってしまった子どもは、大きくなったときに所得の低い職業につかざるを得なくなり、更には彼らの下の世代にも貧困が連鎖してしまうのです。



## 経済格差が子どもの学力格差を生みます

2008年度の全国学力テストの結果を分析すると、世帯収入の多寡で正答率に約20%の開きが生じていました。世帯収入の低い家庭・子どもにかけられる学校外教育費の少ない家庭ほど、子どもの正答率が低いことがわかります。家庭の経済格差が学力格差を生んでいるのです。



## 東日本大震災で、教育機会を奪われてしまった子どもたちがいます

2011年3月に発生した東日本大震災による経済的なダメージで、多くの子どもたちが被災前まで通っていた塾や習い事などを辞めざるを得ない状況に陥っています。CFCは2011年6月より仙台に事務所を構え、被災した子どもたちの支援活動を開始。被災という不可抗力の中でも子どもたちに学校外教育の機会を保障することこそが、長期的な被災地復興にもつながっていくと考えています。

# 「本当の妹のような存在です」

箱崎 渚 (はこざき なぎさ)

東北学院大学 教養学部3年生

私は小学生の頃、家庭教師の先生に教えてもらっていました。勉強だけでなく、学校の話や悩み事なども聞いてもらったりして、一人っ子だった自分にとっては本当のお姉さんのような存在でした。その憧れから、CFCのブラザー・シスターの活動に参加したいと思いました。

当初は、「私にできるのだろうか?」という不安もあったのですが、CFCでは専門家の先生による研修制度があるおかげで、しっかりと準備をして臨むことができます。特に研修でコミュニケーションについて学べたことは、子どもたちと接する上で大きく役立っています。

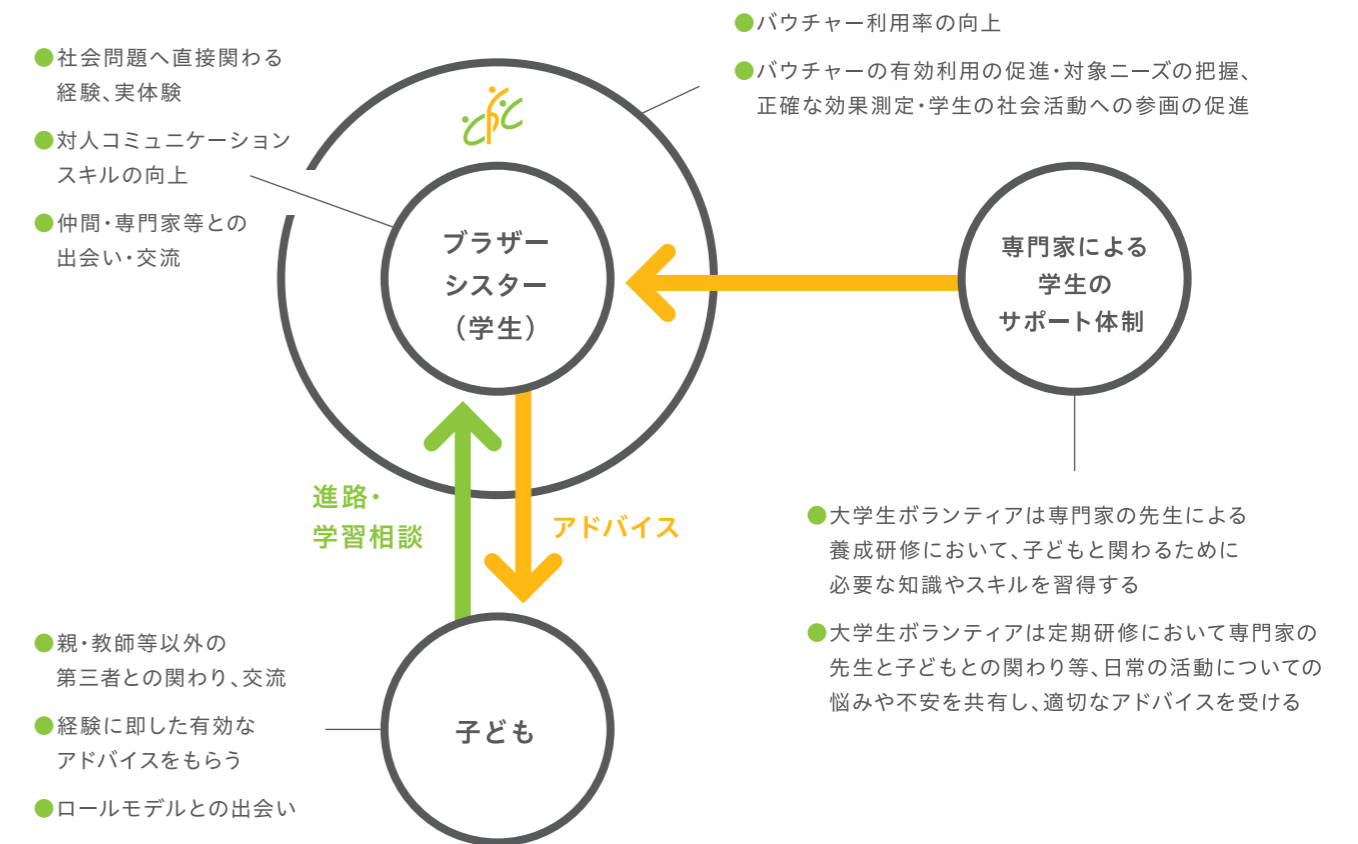
現在担当している女の子とは、2回の電話面談を通して「ディズニーが好き」という共通点を見つけていたので、3回目の面談で初めて会った時も、すんなり打ち解けることができました。電話面談の際に薦めたテキストが家にあったのは嬉しかったですね。今では本当の妹のような存在です。

彼女は今年、高校受験を控えているので、今後は進路の面でも何か力になりたいと思っています。「保育士になりたい」という夢を持っているので、どんな道があるのか色々調べているところです。これからも応援していきたいです。

## ブラザー・シスター制度

大学生ボランティアが月に一度の電話や面談を通して  
バウチャー利用に関するアドバイスや進路・学習相談を行います

大学生ボランティア(ブラザー・シスター)は、専門家による対人援助、グリーフケア、進路・学習などに関する研修を受けています。また、2ヶ月に一度専門家からの助言等をもらう定期研修に参加し、子どもたちを支えるための知識やスキルを学んでいます。



## ブラザー・シスターの声

私の担当するバウチャー利用者は受験を終えて高校に入学したばかり。でも、すでに将来を見据え、次の目標に向かって頑張っています。自分でもどんなサポートができるのかを考え、一緒に成長していきたいです。



桧垣 幸平 (ひがき こうへい)  
関西学院大学 商学部1年生

私が担当しているバウチャー利用者はちょうど妹くらいの年齢。彼女たちの「お姉さん」として、進路に関してはもちろん、日常生活に関しても何でも相談してもらえる存在になればと思っています。



中澤 舞 (なかざわ まい)  
東北大学 理学部2年生

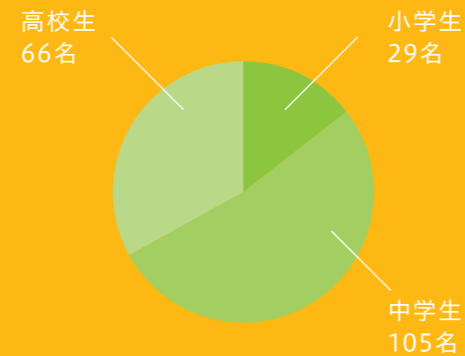
# 学校外教育バウチャーが 子どもたちの未来を 切り開きます

被災によって塾や習い事などをあきらめざるを得なかった子どもたち、家庭の経済的な理由によって十分な学校外教育を受けるチャンスがなかった子どもたちの未来を切り開くのが学校外教育バウチャーです。バウチャー利用者の多くが学ぶ機会を増やし、進学  
のチャンスをつかんでいます。CFC東日本では応募者の73%、1012名が住家全壊、または原発災害によって避難している世帯の子どもです。それでもなお、1701名の応募者のうち、1500名以上の子どもたちには支援ができていない状況です。

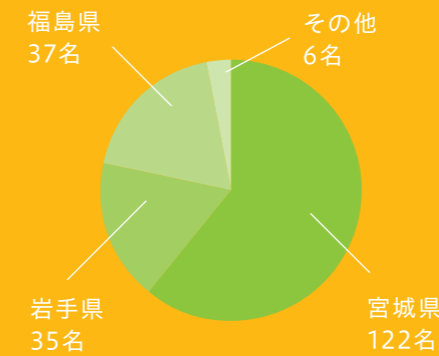
## バウチャー利用者データ

(東日本/200名中)

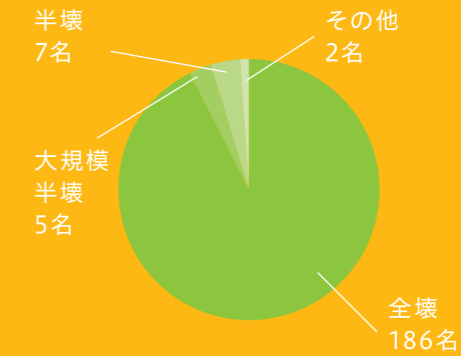
### 学年別



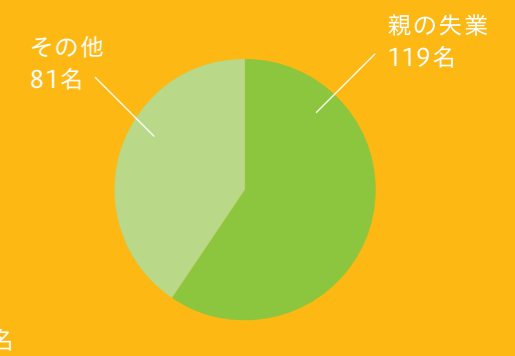
### 地域別



### 住家被害別



### 親失業の割合



## バウチャー利用者進路実績

### 中学3年生(58名)

バウチャー利用者の100%が進学を果たしました。94.8%が希望する進学先に進むことができます。

#### 卒業後の進路は?

内容	実数(名)	率
進学	58	100.0%
計	58	100.0%

#### 進学先の学校は希望していたものでしたか?

内容	実数(名)	率
強く希望していた	38	65.5%
まあまあ希望していた	17	29.3%
あまり希望していなかった	0	0.0%
全く希望していなかった	3	5.2%
計	58	100.0%

### 高校3年生(21名)

バウチャー利用者の76.2%が進学を果たしました。66.7%が希望した進学先に進むことができます。

#### 卒業後の進路は?

内容	実数(名)	率
進学	16	76.2%
就職	0	0.0%
浪人	2	9.5%
決まっていない	3	14.3%
計	21	100.0%

#### 進学先の学校は希望していたものでしたか?

内容	実数(名)	率
強く希望していた	10	47.6%
まあまあ希望していた	4	19.1%
あまり希望していなかった	2	9.5%
全く希望していなかった	0	0.0%
浪人	2	9.5%
決まっていない	3	14.3%
計	21	100.0%

## 利用者・審査方法・応募者・対象者情報

### CFC東日本

#### 【バウチャー利用者情報】

バウチャー利用者 200名(応募者1701名)  
バウチャー利用率 39.6%

※バウチャー利用率=既に利用されたバウチャー金額/バウチャー提供総額です。16ヶ月間の利用期間(2011年12月~2013年3月)のうち、4ヶ月(2012年3月末)時点で全体の39.6%のバウチャーが利用されました。

#### 【審査方法】

●書類審査  
(エントリーシート、罹災証明書、被災を証明する公的書類等を提出)

●審査基準  
被災状況/学年/学校外教育サービスの利用状況

#### 【対象者】

東日本大震災で被災した小学生~高校生  
(住家被害、人的被害、親の失業、原発被害他)

### CFC西日本

#### 【バウチャー利用者情報】

[2011年3月提供]  
バウチャー利用者2名(応募者2名)  
バウチャー利用率99.0%

[2012年3月提供]  
バウチャー新規利用者3名(応募者9名)  
バウチャー継続利用者1名(前年度からバウチャーの利用を継続)  
※バウチャーの有効期間は2012年4月1日~2013年3月31日

#### 【第1次審査方法】

●書類審査  
(エントリーシートを提出)  
●審査基準  
自己向上/学習意欲/進学・就職意欲(中高生のみ)

#### 【第2次審査方法】

●面接審査  
(CFC理事及びアドバイザーによる面接)  
●審査基準  
自己向上/学習意欲/日常生活/  
進学・就職意欲(中高生のみ)

#### 【対象者】

生活保護受給世帯の小学生~高校生  
(兵庫県、大阪府、京都府、奈良県、和歌山県、滋賀県のみ)

# 子どもたちの夢は 私たちCFCの夢でもあります

子どもたち一人ひとりに、大切な夢があります。その夢を経済的な理由からあきらめることほど悲しいことはありません。一人でも多くの子どもに教育機会を提供し、ひとつでも多くの夢が実現することこそが、私たちCFCの夢であり、目標です。

私は小さい頃から医療系の仕事につきたいと思っていました。そして薬剤師という仕事を知り、とても興味を持ちました。また、東日本大震災の際には、避難所を訪問した赤十字の方々に大変お世話になりました。その経験から、私は人の命を救い、人の役に立つことのできる薬剤師になろうと心に決めました。一生懸命勉強して必ず夢をかなえたいと思います。

福島県 高校2年生女子

私の将来の夢は消防士です。昨年の東日本大震災、そして福島第一原発などの事故で多くの人が亡くなり、被災しました。そこで、私は人を救い、人を助ける仕事をしたいと思いました。しかし、夢を追っていても実現できなければ意味がありません。毎日欠かさず勉強して、1日1日、前を向いて夢をしっかりと実現して「消防士」になってたくさんの人を助けたいと思います。

宮城県 中学1年生男子

私の将来の夢は、とこやさんです。なぜ、私がとこやさんになりたいかという、おばあちゃんがとこやをやっていて、私もすぐやってみたいなと思ったからです。それに、もし今みたいに大変なことがあったときに、みんなのかみを切ってあげることができると思ったからです。だから、この夢に向かっていきたいと思います。そのために、いろいろ頑張っていきたいです。

岩手県 小学4年生女子

僕は、あまり自信はないけれど、町役場の公務員になりたいと思います。今の僕の学力ではまだ無理かもしれないけど、公務員になれるように勉強を頑張りたいです。もし僕が公務員になれたら、町の復興につながるような仕事をして、早く町に前のような明るさが戻るようにしたいです。そしてこの夢が現実になるように、町役場の公務員を目指して頑張りたいです。

岩手県 中学2年生男子

私のしょうらいの夢は、いちごやさんです。私の家族は8人います。おじいちゃんとおばあちゃんとお母さんとお父さんがいちごを作っています。いちごがりのお客さんに、「このいちご甘くておいしいですね」と言われます。私も大人になったら、お客さんのためにおいしいいちごを作って、いちごを食べた人に「おいしいですね」と言われたいです。

宮城県 小学2年生女子

僕の将来の夢は医師になることです。今回の震災によって地方は、深刻な医師不足があると実感しました。だから、僕は将来医師になり、少しでも地域医療の発展に尽力して、地域社会を支えていける存在になりたいです。また、自分自身、病弱なこともあり、小さいころから医師にあこがれていました。ずっと目標としてきた医師になって地域にも尽くしたいと思います。

宮城県 高校2年生男子

私は、しょうらい保育園の先生になりたいです。子どもが大好きで、自分にとっても合おうと思ったからです。もう一つ、ピアノの先生にもなりたいです。それは、今教えてくれる先生がすごくきれいで、ピアノも両手で弾けているので、私も両手で弾けるようにして、先生みたいに美しくなりたいと思ったからです。これからいろいろけいけんして、がんばっていききたいです。

福島県 小学4年生女子

僕の将来の夢は高校の先生になることです。そして、野球が好きなので野球部の顧問になることも夢です。そのために、まずは毎日の勉強を積み重ねて、数学の先生になるための大学に現役合格を目指しています。大学でも野球に真剣に取り組み、選手として頑張ることも夢です。このような将来の夢に向けて毎日充実した生活を送ることを心がけています。

兵庫県 中学3年生男子

私の将来の夢は、作家になることです。小さい頃から、読む人に喜びや悲しみ、そして感動を与えられる本の力に魅力を感じていました。そして、自分も読んだ人に感動を与えられるような本を書きたいと思っていました。そしてそれは、震災を通じてより一層強くなりました。傷ついた人達の心に寄り添えるような、そんな本を提供できる作家になりたいと思っています。

千葉県 高校3年生女子

僕の将来の夢は、町や地域の人々が安全に安心して暮らせるような町づくりをする立派な警察官になることです。警察の方々には、3月11日以来お世話になっていて、地域の安全を守る姿を見てきています。僕もそんな風に地域の安全を守ることができるような警察官になりたいと思いました。そのためにバウチャーを使って頭を良くして立派な警察官になりたいと思います。

福島県 中学1年生男子

私の将来の夢は、看護師になることです。小学6年生で初めて入院をした時、看護師さんに優しくしてもらったことがきっかけです。私もそんな優しい看護師になれるように、1日に一回は人から「ありがとう」と言ってもらえるようなことをするという目標をたてています。昨日より今日、今日より明日、ありがとうの数が増えていくように頑張っていこうと思います。

兵庫県 中学3年生女子

# 日本の未来を担う 子どもたちを 皆さまと「一緒に」 支えていきたい

CFC代表理事の3人は学生時代、CFCの設立母体であるNPO法人ブレンヒューマニティーで子どもたちの選択肢を広げるための様々な活動をしてきました。その中で3人が学んだことは、すべての子どもたちは大きな可能性を秘めているということ。子どもたちの持つ可能性を最大限に引き出すために、これからも皆さまと「一緒に」支えていきたいと思ひます。



代表理事  
**今井 悠介**  
1986年生まれ  
兵庫県出身

小学2年生の時に阪神・淡路大震災を経験。関西学院大学在学中、NPO法人ブレンヒューマニティーで不登校生徒支援に関わる。KUMONで教室コンサルタントとして勤務した後、'11年7月に退職し、当法人代表理事に就任。

家庭状況や突然の災害。困難な状況であっても子どもたちは前を見えています。子どもの「声」を聞くと、彼らは決して「可哀想な子ども」ではなく、これからの日本と一緒に支えていく大切な「仲間」だということに気がきます。「すべての子どもに機会を。すべての子どもに夢を。」このスローガンが達成されるその日まで、彼らの力を引き出すためのお手伝いをしていきたいと思ひます。



代表理事  
**奥野 慧**  
1985年生まれ  
新潟県出身

19歳の時に新潟県中越地震を経験。関西学院大学在学中、NPO法人ブレンヒューマニティーで国際交流事業に関わる。'11年3月から東日本大震災緊急支援活動に参画。その後当法人設立・代表理事に就任。

2011年は西日本での支援に加え、東日本大震災被災地での事業の立ち上げ、法人設立等、私たちにとって大きな転機之年になりました。日本の教育構造では、世帯収入の多寡により学校外教育機会が左右されます。「被災や経済的困窮によって子どもの“チャンス”が制限されてしまう社会はおかしい」。そんな想いをもって僕たちは活動しています。これからも継続的なご支援をよろしくお願ひします。



代表理事  
**雑賀 雄太**  
1987年生まれ  
香川県出身

関西学院大学在学中、NPO法人ブレンヒューマニティーで子どもの貧困プロジェクト代表を務める。大学卒業後、(財)大阪YMCAに入職。'11年3月、当法人の設立のため退職し、代表理事に就任。

子どもたちは様々な学びの機会を通じて、自分の目標や夢を見つけます。しかし、突然の災害や家庭の経済的な理由によって「学びたいのに学べない」子どもたちがたくさんいます。僕たちは、子ども一人ひとりの持つ目標や夢を大切に想いながら応援していきたいと思ひます。すべての子どもが自分の夢を追いかけることのできる社会を実現したいと思ひます。

## CFCの活動は、経験豊かな方々に 支えられています

「子どもの貧困」は、途上国だけの問題ではありません。すでに日本では、子どもたちの7人に1人が貧困であると言われていひます。それは私たちの足もとの問題であり、その問題から今、目を背ければ、新たな貧困を生み出すことになるのです。CFCの活動は、貧困の連鎖を断ち切り、その問題解決に向けた一歩になるでしょう。

多くの機会に恵まれぬ子どもたちに未来の夢を与えるきっかけを、ボランティア学生の協力で進めているこの活動に敬意を表します。学生さんも、ボランティア精神の真の意味を学び、この機会に別の世界を見るきっかけとなり、子どもたちと若者が共に次代を担い、すばらしい社会を創造できると期待し、この活動を心から応援します。

民間団体による支援活動の社会的価値が認知されるためには、寄付者や社会に対し、活動の状況だけでなく、その成果も説明していくことが必要です。この国際的には当然のことが、我が国では必ずしも浸透していません。CFCは社会に対して、真摯に説明責任を果たそうとしていひます。私はその姿勢を心から応援し、彼らの事業評価と改善のために支援したいと思ひます。

特定非営利活動法人  
ビッグイシュー基金  
理事長



**佐野 章二 様**

社会福祉法人  
仙台いのちの電話  
理事長



**出村 和子 様**

慶應義塾大学  
経済学部教授



**赤林 英夫 様**

### アドバイザー・スーパーバイザー：CFCの運営全般に関してアドバイス



**明石 要一 様**  
千葉大学  
教育学部教授



**川北 秀人 様**  
IIHOE[人と組織と地球の  
ための国際研究所]代表者



**川島 恵美 様**  
関西学院大学  
人間福祉学部准教授



**高橋 聡美 様**  
仙台青葉学院短期大学  
精神看護学講師



**武井 敦史 様**  
静岡大学大学院准教授



**田村 太郎 様**  
(一財)ダイバーシティ研究所  
代表理事



**津久井 進 様**  
弁護士法人芦屋西宮市民  
法律事務所・代表社員



**出村 和子 様**  
社会福祉法人  
仙台いのちの電話 理事長



**古野 一徳 様**  
日本学術振興会  
特別研究員 (PD)



**長尾 文雄 様**  
特定非営利活動法人ブレン  
ヒューマニティー理事



**能島 裕介 様**  
特定非営利活動法人ブレン  
ヒューマニティー理事長



**半羽 利美佳 様**  
武庫川女子大学文学部  
心理・社会福祉学科准教授

### トレーナー：大学生ボランティアの育成のサポート

**佐藤 利憲 様**

仙台青葉学院短期大学看護学科助教授

**松浦 智博 様**

株式会社デユナミス取締役キャリア教育コーディネーター

**松本 幸子 様**

宮城県中央児童相談所元職員・社会福祉士

### 評価分析チーム：外部評価者としてCFCの事業を評価・分析

**赤林 英夫 様**

慶應義塾大学経済学部教授

**荒木 宏子 様**

慶應義塾大学大学院経済学研究科博士課程

**田中 隆一 様**

政策研究大学院大学准教授

**中室 牧子 様**

東北大学大学院文学研究科助教授

### パートナー

ブレンヒューマニティー



ブレンヒューマニティーは、チャンス・フォー・チルドレンの設立母体であり、日本で初めて学校外教育パウチャー事業を開始したNPO法人です。阪神・淡路大震災が活動の原点であり、現在は子どもたちの選択肢を広げるための幅広い事業を展開しています。

ハタチ基金



ハタチ基金は、東日本大震災で被災した子どもたちを20歳まで支え続けることを目的に国内の教育関連NPOなどが連携し、その運営を行っています。当法人もハタチ基金運営団体のひとつとして、被災した子どもたちに対して学校外教育パウチャー提供事業を行っています。

# 財務・会計

## 損益計算書の要旨

(2011年6月20日から2012年3月31日まで)

(円)

収益の部	<b>1 寄付収入</b>	22,905,512
	バウチャー指定寄付	22,297,512
	運営費指定寄付	608,000
	<b>2 補助金等収入</b>	59,198,963
	<b>3 委託収入</b>	1,684,419
<b>4 雑収入</b>	2,182	
	<b>収入の部合計</b>	<b>83,791,076</b>
費用の部	<b>1 事業費</b>	57,473,938
	バウチャー発行高	50,000,000
	その他事業費	7,473,938
	<b>2 管理費</b>	19,229,191
	人件費	7,635,570
	その他経費(地代家賃・事務費等)	11,593,621
	<b>支出の部合計</b>	<b>76,703,129</b>
	<b>当期正味財産増加額</b>	<b>7,087,947</b>

## 貸借対照表の要旨

(2012年3月31日現在)

(円)

資産の部	<b>1 流動資産</b>	46,435,083
	現預金	43,170,409
	未収入金	3,264,674
	<b>2 固定資産</b>	1,794,613
	<b>資産の部合計</b>	<b>48,229,696</b>
負債の部	<b>1 流動負債</b>	41,141,749
	バウチャー引当金	14,750,000
	未払金(提供バウチャー未使用分等)	25,206,400
	未払費用(未払人件費等)	1,030,111
	その他流動負債	155,238
	<b>負債の部合計</b>	<b>41,141,749</b>
<b>正味財産</b>	7,087,947	
	(うち当期正味財産増加額)	7,087,947

貸借対照表、損益計算書(正味財産増減計算書)及び財産目録は、法令及び定款にしたがい、法人の財産及び損益の状況を適正に表示しているものと認めます。

監事

津久井 進



## スーパーバイザー意見

2009年から始まったCFCの取り組みが、東日本大震災被災地においても大きな役割を果たすことになったことは高く評価されることである。とりわけ塾や習い事、文化活動、スポーツ活動などの学校外教育事業者も大きな被害を受けた被災地において、被災した子どもの学びを支えるだけでなく、こうした事業者の自立を支え、被災地に雇用を生み出すCFCの仕組みは新しい被災地支援のあり方として注目に値するものであると思われる。

一方、それらの支援に要する費用の多くはハタチ基金を通じた寄付に大きく依存しており、自立的で安定的な事業の展開の観点からはさらなる自己財源の確保が求められることである。また、貧困世帯の子どもたちや被災した子どもたちへの支援はこうした民間による寄付だけでなく、公的資金の導入も必要であると思われる。この点を踏まえ、今後は企業、団体、個人からの寄付の拡充を図りつつも、行政と連携したバウチャーの取り組みも視野に入れる必要があるだろう。

いずれにせよ、2011年度において、CFCはその事業規模においても、その重要性においても飛躍的な拡大が行われた訳であるから、それに堪えるような組織基盤の整備は最優先の課題であるといえるだろう。

特定非営利活動法人  
プレーンヒューマニティ  
理事長

能島 裕介



# 2011年度の活動

2011年6月20日 一般社団法人チャンス・フォー・チルドレン設立

## 東日本

2011年	9月12日	バウチャー利用者応募開始
	10月31日	バウチャー利用者応募締切
	11月1日～11日	バウチャー応募者選考
	11月5・6日	ブラザー・シスター養成研修(以後、2回実施)
	11月27日	第1次バウチャー提供/バウチャー贈呈式開催
	12月1日	バウチャー利用開始(有効期限:2013年3月31日)
2012年	1月8日	バウチャー利用者/ブラザー・シスター初回面談(以後、毎月1回実施)
	2月18日	ブラザー・シスター定期研修
	2月26日	学校外教育フォーラム開催
	5月5日	第2次バウチャー提供/バウチャー贈呈式開催

## 西日本

2011年	4月1日	バウチャー利用開始(有効期限:2012年3月31日) バウチャー利用者/ブラザー・シスター初回面談(以後、毎月1回実施)
	10月8日～12月28日	街頭募金活動実施
2012年	2月7日	バウチャー利用者応募開始
	3月7日	バウチャー利用者応募締切
	3月8日～14日	応募者第1次選考(書類審査)実施
	3月15日	応募者第1次選考通過者決定
	3月22日～25日	応募者最終選考(面接審査)実施
	3月30日	ブラザー・シスター養成研修実施
	3月31日	バウチャー提供(2012年4月1日～利用開始)

# メディア

テレビ	2012年 2月29日	仙台放送「スーパーニュース」 学校外教育バウチャーによる被災地支援活動紹介
	2012年 2月7日	毎日放送「VOICE」 学校外教育バウチャー事業紹介
	2012年 2月3日	朝日放送「キャスト」キャスト教育委員会 学校外教育バウチャー事業紹介
ラジオ	2011年 12月11日	81.3FM J-WAVE「LOHAS SUNDAY」 代表理事奥野慧インタビュー
	2011年 9月30日	81.3FM J-WAVE「JK RADIO TOKYO UNITED」 “KONICA MINOLTA COME TOGETHER”代表理事今井悠介インタビュー
新聞	2012年 3月9日	日本経済新聞 CFC学校外教育バウチャー事業紹介記事
	2012年 2月27日	河北新報 学校外教育フォーラム紹介記事
	2012年 1月17日	産経新聞 代表理事今井悠介のインタビュー記事
	2012年 1月5日	神戸新聞 代表理事今井悠介のインタビュー記事
	2011年 12月2日	朝日新聞 学校外教育バウチャー事業紹介記事
	2011年 11月28日	朝日新聞 CFCバウチャー贈呈式紹介記事
	2011年 11月28日	読売新聞 CFCバウチャー贈呈式紹介記事
	2011年 11月28日	河北新報 CFCバウチャー贈呈式紹介記事
	2011年 11月28日	毎日新聞 CFCバウチャー贈呈式紹介、大学生ボランティアの紹介記事
	2011年 9月29日	朝日新聞 CFCバウチャー利用者募集記事
	2011年 9月21日	河北新報 CFCバウチャー利用者募集記事 他
雑誌	2012年 3月1日	ソトコト(2012年3月号) 学校外教育バウチャー事業紹介
	2012年 2月7日	経済界(2012年2月7日号) 学校外教育バウチャー事業紹介
	2011年 12月1日	ソトコト(2011年12月号) 学校外教育バウチャー事業紹介